市報
# くらよし

平成 18 年 1 月 1 日　No. 1307

まちづくりキャッチフレーズ

**あふれる笑顔　豊かな緑**
**交流とふれあいのまち倉吉**

写真：打吹公園の冬景色

折紙教室「干支 戌」／赤瓦一号館

●主な内容●

■佐渡ケ嶽親方 おつかれさまでした・ 2～3
■新春に寄せて …… 4
■平成 16 年度決算／
平成 17 年度上半期予算執行概況……5～8
■ハート・バリアフリー …… 9
■子どもたちの安全確保のために／
韓日記 …… 10
■インフォメーション ……11～16
■健康ファイル…… 17
■どうぞ・どうそ／きてみてね／地区の話題…… 18

2006 1・1

発行　鳥取県倉吉市　　編集　企画部秘書広報課　〒 682-8611　鳥取県倉吉市葵町 722　☎ (0858) 22-8111　FAX (0858) 22-1087
倉吉市ホームページアドレス　http：//www. city. kurayoshi. tottori.jp　毎月 1・15 日発行　印刷　山本印刷株式会社

# 佐渡ケ嶽親方おつかれさまでした

奉納土俵入り（熱田神宮）昭和49年7月2日
所蔵：早田ケイ子さん

昨年11月25日、第53代横綱琴櫻の佐渡ケ嶽親方（本名・鎌谷紀雄さん）が、46年10ヵ月土俵人生の相撲界から引退されました。

佐渡ケ嶽親方は、倉吉市の名誉市民として、倉吉市のためにご尽力いただいてきました。

また、昨年で27回を数えた恒例の「桜ずもう（桜杯争奪相撲選手権大会）」では、部屋の力士を引き連れて、倉吉へ帰ってきていただき、倉吉はもとより、鳥取県の小中学生の相撲の発展にご尽力いただきました。

多くの人が知るその人となりは、昭和49年に発刊された「横綱琴桜」（横綱琴桜刊行会・編集発行）のなかで、神風正一さん（元関脇神風）の文書の中に、「優勝するたびに〝おめでとう〟と声をかけるのだが、いつも「おかげさんで」「おかげさんで」と、いちいち丁寧に頭をさげて礼をいう。報道陣にも、どんな質問をされても、いやな顔をひとつせず、応対するそうで、横綱になっても少しもえらそうにしない。琴桜のことを悪くいう人は、まったくいない」との記述からもうかがえます。

部屋を引き継がれた琴ノ若関は、親方の長女・真千子さんをお嫁さんにしておられ、親方に「これだけ素直で、一生懸命がんばった力士はそういない」と言わせるだけの人格。これからも、倉吉との縁は続くと期待しています。

平成17年「桜ずもう」には、琴ノ若、琴欧州ともに来倉

（引退への市長メッセージ）

鎌谷　紀雄 様

この度は長い間の現役生活から相撲協会でのご活動、本当にご苦労さまでした。

また、今場所での琴欧州の大活躍、そして大関昇進と、おめでとうございます。

まだまだなにかとお忙しいことと思いますが、落ち着かれる時間ができましたら、倉吉にもお帰りいただくことがあればと願っています。

平成17年11月30日
倉吉市長　長谷川　稔

## 佐渡ケ嶽親方引退に寄せて

### ー佐渡ケ嶽親方の引退に思うー

**鳥取中央農業協同組合**
**組合長　坂根國之さん**
**（倉吉農業高校同級生）**

前列右が坂根さん、後列左から2番目が親方

親方、長い間本当にご苦労さまでした。

母校、倉吉農業高校の柔道部で共に汗を流した仲間として、心より慰労したいと思います。

入学時、鎌谷君は柔道2段、学年でもひときわ体格がよく、実力の差は歴然としており近寄りがたいところがありました。しかし本人はとても人柄が良く文字通り“気はやさしくて力持ち”、県高校体育大会ではいつも個人優勝戦で名勝負をするほどの実力の持ち主でした。卒業後相撲界へ入角し一時帰郷されたときの体験談で、「足の裏の皮が全部むけてしまっても稽古は休まなかった」と聞いたときには、その厳しさと本人の忍耐力に仰天致しました。順調な昇進の途中大けがで苦境に立ったときも、その忍耐と努力できっと立ち直れると思っていました。その後横綱に昇進されたときには同級生皆が歓喜したものです。相撲界で頂点を極め、各方面での数々の活躍は郷土倉吉市の名を高め、多大な貢献は郷土の歴史に不滅の輝きを与えると共に私達の一番の誇りです。

今後健康に充分注意され、元気で益々ご活躍されることを祈念してやみません。

### ー琴欧州の国ブルガリアからー

**ブルガリア大使 福井宏一郎さん**
**（倉吉市福庭出身）**

親方は相撲界と倉吉に大きい貢献をされました。現役のときの勇姿は、横綱北の富士を左前ミツでひきつけ右手のど輪で土俵の内側で押しつぶした豪快な一番がまぶたに残ります。強い人を相手にあんな相撲はちょっと例がないでしょう。そのときは観ている私も力が入って、あと一押しだと両手が思わず親方と同じ格好になりました。親方としても多くの関取を育てられましたが、倉吉の関係者としては「桜ずもう」で一門を引き連れて春に倉吉に帰っていただけるのが何よりでした。初期のころの「桜ずもう」の後、琴風関や琴ヶ梅関がナショナル会館でニコニコしながらお酒を飲んでいる姿を思い出します。大男の周りに柔らかな春風が漂っているようでした。そして親方の引退と同時にブルガリア出身の琴欧州が大関に昇進しました。初心を忘れず、相撲界の宝のような存在になって欲しいと思います。この時期に親方と同じ倉吉出身の私がブルガリアで日本国の大使をしているのは何かのご縁と思います。ご苦労さまでした。

## 佐渡ケ嶽親方（元横綱･琴櫻傑将（まさかつ））年表

| 年　月 | 事　柄 |
|---|---|
| S15 年 11 月 | 倉吉市鍛冶町に生まれる |
| S34 年初場所 | 初土俵（19 歳） |
| S35 年初場所 | 三段目優勝 |
| S37 年名古屋場所 | 新十両・十両優勝（11 勝 4 負） |
| S38 年初場所 | 十両優勝（13 勝 2 負） |
| 〃　春場所 | 新入幕 |
| S39 年初場所 6 日目（1 月 17 日） | 対横綱柏戸との一戦で負傷（全治 3 ヵ月）　三朝温泉西藤館（せいとう）で温泉療養 |
| 〃　名古屋場所 | 十両西二枚目からの出発 |
| 〃　九州場所 | 再入幕・東十二枚目（10 勝 5 負） |
| S40 年秋場所 | 殊勲賞（東筆頭） |
| S41 年九州場所 | 殊勲賞（小結） |
| S42 年九州場所 | 新大関（東関脇 11 勝 4 負） |
| S43 年 7 月名古屋場所 | 初優勝（13 勝 2 負） |
| 〃　秋場所 | 左足小指骨折 |
| S44 年初場所 | 左ひざ負傷 |
| 〃　春場所 | 優勝②（13 勝 2 負） |
| S45 年 6 月 2 日 | 宮崎市の実業家岩下又三さんの二女・章予（ふみよ）さんと結婚（媒酌は大平正芳元総理大臣） |
| S47 年九州場所 | 優勝③（14 勝 1 負） |
| S48 年初場所 | 優勝④（14 勝 1 負）<br>第 53 代横綱昇進（32 歳） |
| S48 年名古屋場所 | 優勝⑤（14 勝 1 負）<br>（対北の富士）<br>立会いで素早く左を差し横ミツを取る。北の富士左を差し入れてくるところ、右からおっつけながら寄り切る |
| S49 年 5 月 | 横綱引退（33 歳） |

### 紀雄兄さん、お疲れさまでした。応援してくださったみなさん、ありがとうございました。

親子でひととき

倉吉の打吹公園の桜のしこ名をいただいて、倉吉の皆さまの温かいご声援を受け、本当にいい相撲人生だったと思います。

父は警察官だったので、転勤も多くありましたが、家族８人、倉吉に住まいをさせていただきました。

母は、編み物の内職をしながら、子どもたちと父が仕事で精一杯働けるように留守を守り、食べ物の少ない時代でしたので、食べ盛りの子どもたちのために、腹いっぱいになるように、四苦八苦していました。

兄の思い出の一つに、冬に大雪が降ったときは、いつも自宅のみならず近所の道も雪かきをして学校に行っていました。また、家計を助けるために、新聞配達をしたりラムネ屋でアルバイトをして、学用品を購入したり、体力づくりをしていたように思います。

こんなこともありました。食事中に、私は、自分の好物をあとで食べようと思って横に置いていたところ、隣に座っている兄（紀雄）が、「これ、いらないか？」と言っては、よく食べられていました。

家族思いの明るい兄で、いろいろと思い出してみても、よく気がつく兄なので、人から好かれて声援していただいたのだと思いますし、倉吉の人情に支えられて頑張ってこれたのだと思います。

みなさん、長い間、応援ありがとうございました。これからも、末永く見守ってやってください。　（妹　早田ケイ子より）

断髪式
昭和 50 年 2 月 1 日

結婚式
昭和 45 年 6 月 2 日

初優勝（名古屋場所）
昭和 43 年 7 月 21 日

十両優勝
昭和 37 年 7 月 8 日

写真右が岸田さん

### …人の心の大切さを伝え続けてください…
### コマツ靴店社長 岸田寛昭さん

初めて親方にお会いしたのは、青年会議所で第 12 回の「桜ずもう」の打ち合わせのために上京し、佐渡ケ嶽部屋（当時は錦糸町）を訪ねたときでした。親方は、とても地元の人を大切にされる人で、こんなこともありました。その日は、墨田川の花火大会で、親方は政財界著名人の会に招待されておられました。しかし、私たちのために、その会を早く切り上げて帰ってこられ、ご夫婦ですし屋へ連れって行ってくださいました。また、桜ずもうで帰ってこられると必ず、地元でお世話になられた故人へ、線香をたむけられるために足を運ばれます。

そんな、地元を大切にし、人を大切にされてきた親方が引退されますが、これからも親方の人となりを末長く後継者へ伝えてください。

また、お上さんには、倉吉を大切にしていだいたことや、親方を支えてこられたことに対し、敬意と「お疲れさまでした」の言葉をおくらせていただきます。

「親方、お上さん。今後もお体を大切にしてださい」

漫画：かわにしよしとさん作（倉吉市富海出身）
読売新聞で政治漫画（毎週木～土曜付）を連載中

「親方、お疲れさまでした」

# 新春に寄せて

新春に寄せて……平成18年元旦

## 子育てが楽しい時代（とき）と都市（まち）へ

倉吉市長　長谷川　稔

新年あけましておめでとうございます。

皆さまには、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申しあげます。また、皆さまには、市政に対する温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて倉吉市は、昨年3月22日に隣接する旧関金町との合併をおこない、人口約5万3千人、市域面積272・15㎢を有する新生「倉吉市」としてスタートいたしました。

国におきましては、「国土の均衡ある発展」から「個性ある地域の発展」という政策転換で、地方分権が推進され、国が担ってきた政策機能を原則的に地方が自ら担うこととなりました。当市も、今まで国の政策に準じて実施してきた各分野で、地域の特性に応じた、自らの政策形成を担い得る自治体にならなければなりません。

『まず、地域ありき』の理念に立ち、地域の問題については、第一に地域、そして市民自身が主体的に取り組み、市民だけでは対応しきれないものは基礎的な自治体の市町村が、そしてより広域的な問題については県が、さらには国が対応するというように、従来とは逆転した発想に転換していくことも必要であります。

倉吉市は合併によってこのような「地方の時代」を生き抜く力のある自治体として、さらには、より自立した鳥取県中部の中核都市として、合併にあたり作成された新市建設計画の基本方針の『人と自然と文化がつくる「キラリと光る新中核都市」』を、めざすべき将来都市像として掲げ、市民が主役の新しい特性をもったまちづくりに取り組んでいるところであります。

このような中、当市は通勤や通学による流入人口は多いものの、転出などによって総人口が減少傾向であり、また今後も少子化傾向が予測されていることから、生産年齢人口の中心である若者の減少によって市内産業が衰退し、地域経済の活力やまちの魅力低下につながることがおそれられています。

若者にとって魅力あるまちづくりを実現するためには、安定的な就業場所の確保や労働環境の整備、さらには消費の場所として魅力ある商業地域があることや、子どもを持つ市民が安心して子育てのできる環境づくりを行なうことが重要であり、その取り組みを積極的、重点的に行なう必要があります。

したがって、本年度策定した、平成18年度を初年度とする当市まちづくりの最上位計画であります「第10次倉吉市総合計画」には、「若者の定住化促進」をその重点課題として位置付け、明るい将来を見据えた諸施策を計画的かつ総合的に進めていくこととしています。

また、市政の主役は市民という認識から、市民と行政の協働の関係を構築し、相互のパートナーシップが確立された市民参画型社会の実現のため、「市民参画条例」の年度内制定をめざし、現在準備を進めているところです。

地方自治の仕組みが歴史的転換期に来ている今、それぞれの地域の潜在能力と可能性を信じ、さらに創意工夫を重ね、明るい未来を切り開くべく、力の限りまい進してまいりたいと決意を新たにしております。

結びに、今後とも市民の皆さまの益々のご繁栄と、新生「倉吉市」の飛躍の年となりますことを心から祈念し、年頭のごあいさつといたします。

## 市民が安全で安心して暮らすことのできるまちの創造

倉吉市議会議長　山口　博敬

新年明けましておめでとうございます。

市民の皆さまには、家族おそろいでお元気に希望に満ちた年をお迎えのことと思います。

私は、政治の目指すところは、すべての市民が安全で安心して暮らすことのできる街をどうつくり、どう確保していくか。このことに尽きると思います。

一昨年より、小泉首相の〝地方にできることは地方に〟との考えを受け、国庫補助金の削減、地方への税源移譲、地方交付税制度の見直しを進める三位一体改革も、義務教育費国庫負担金、生活保護費負担金など協議が難航しましたが、12月に入りようやく合意し決着しました。

これで、平成18年度までの補助金4兆円削減、税源移譲3兆円の全体像が決定したことになり、今後は地方交付税改革に焦点が移ります。

国と地方を合わせた借金は、8百兆円超も視野に入りつつある中、この借金を返済する将来人口は、少子化によって急速に減少していきます。私たちは私たちの子や孫に大きな負担の重荷を残すことだけは避けたいものです。現在のいろいろな制度を検証し、非効率や無駄を徹底的に無くし、このことが市民に痛みを伴うことになる場合、懇切・丁寧に説明し、理解・納得を得ながら行財政改革を真しに取り組み、自主財源の確保を含めた財政基盤の強化を図り、多様化する住民ニーズに対応していく必要があります。

関金町との合併協議会で、新市の将来像には『人と自然と文化がつくる「キラリと光る新中核都市」』を掲げ、これを基本として実現をはかるため、平成18年度からスタートする第10次倉吉市総合計画をまとめました。この総合計画の基本構想期間は平成27年までの10年間で、生産年齢人口の維持を図ることで地域経済の活性化につなげるため、若者の定住化を促進することを柱に、市民の皆さまと協働しながら元気で健全なまちづくりを目指すことになりました。市議会としても現状認識を的確に行い、市民の負託に応えるため、合併による旧関金町議員の在任特例を7ヵ月間、議員定数は現行の21人とし、10月2日の市議会議員一般選挙で、新議員が選出され、新倉吉市議会がスタートしました。議員報酬については、平成14年5％、平成15年7％、平成16年10％と削減してきましたが、より適正なものとするため特別職報酬等審議会の答申を得て、6月定例市議会で、15・4％削減を全会一致で決定しました。

また、市民の関心の高かったケーブルテレビ放送による議会中継も昨年は5回全て行い、従来初日と一般質問3日間の放送でしたが、市民要望に応えるため、12月議会は、一般質問3日間と質疑日の放送に変え、市民への情報公開、開かれた議会を一層推進してまいりました。

引き続き、より良い、信頼される議会を目指し、議会改革を進めてまいります。そして、財政の健全化、倉吉駅周辺整備、河北中学校移転問題、産業振興、企業誘致、雇用対策、関金地区振興策を含めたグリーンスコーレせきがね経営改善など、諸課題に真剣に取り組み、公正で開かれた議会、民主的で自立できる市政の実現に向け、鋭意努力を重ねてまいる所存です。

この1年が、市民の皆さまにとりまして、健康で幸多き年になりますよう、また、当市にとって実り多き年になることを祈念しながら新年のごあいさつといたします。